

大正二十三年
亞細亞
的吉野
雜道從談

伊豆	4,000.
小倉村	3,000.
井原	1,000.
松	1,200.
荒	1,200.
a	800.
b	800.
c	700.
d	700.
e	600.
f	600.
金子	900.
子	900.
合計	15,000.

マルク(百九十五マルク)内
 落首相クノ一辞職 惨

家付の如菜 一
 瓶
 梅羊美 二
 のし梅
 牛肉とまきと漬
 野菜(長茄子)ききやと茄子
 枝豆



御所 六日
 修學院 六日
 詩仙堂 六日
 桂 六日
 西本願寺 七日
 東寺 七日
 醍醐寺 七日
 法界寺 七日
 平等院 八日
 法隆寺 九日
 中宮寺 九日
 法輪寺 九日
 法起寺 九日
 出雲大社 十日
 雲舟終 十日
 無量壽 十日

益甲 三隅
 坂市政 澄川 弥七



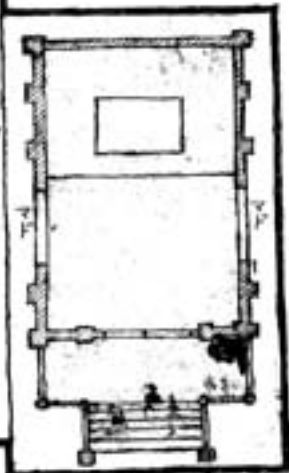
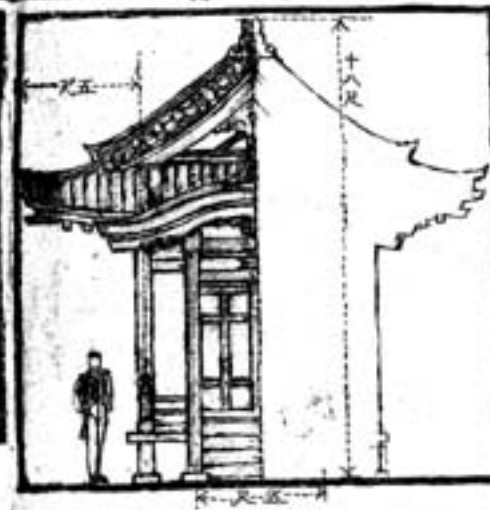
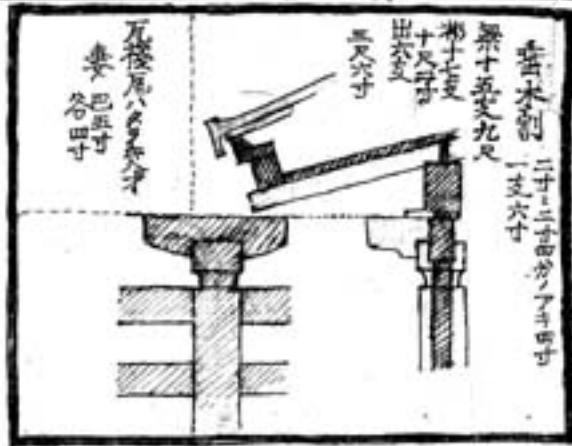
先候不
 紀綱不
 霧 不止
 雲舟終 不候
 無量壽 不候
 出雲大社 不候
 法起寺 不候
 法輪寺 不候
 中宮寺 不候
 法隆寺 不候
 平等院 不候
 醍醐寺 不候
 東寺 不候
 西本願寺 不候
 桂 不候
 詩仙堂 不候
 修學院 不候
 御所 不候

宜努修長

出づ大社

- 31. 土地賣收費
- 30. 土木建築費
 - 15. 土木費
 - 18. 建物
 - 3. 築庭
 - 4. 設計監督事務

設計監督-2.5	{	技師一人 三手 6000
		助手二人 6000
事務-1.5	{	雇二人 5000
		雑 8000
		給与-10000
		炊費-2000
		消耗-2000
		その他-1000



修徳院 離宮

藏六庵

唐只軒

彰遠

諾仙堂

承應二年、修徳子安の位也

承應三年

清仙を召まき、芥川型、
他、後世、是を増し又、櫻操、

註

古書院、天正十六年、永徳

中書院、正安、信直、信直

新御殿、寛永中

醍醐寺書院

横山百双園、桐葉の画

雪舟、未、生駒、等、高、等

石見地方の姓に

劉、(奥京の寺)

目、樂、椛、桐、竹、新

出雲大社

大正十四年度に竣功
 土木出身者 月給百二十円
 又ハ建築出身者 年未嘗テ二十月分以上
 大塚柏寺ハ辭職 神社財政の事情より不定
 兩人共凡そ三ヶ月分の手当支給
 別に賞与若干(昨年未不足分)
 政府ヨリ十六年度予ミ下附
 土地買収費は政府ヨリ下賜
 工費合計廿九万二千三百円

大塚問題

賞与の強請
 昇級その他之重要要求
 城刃賞り要求の件
 決意書の件
 撤回願ひの不機文の件
 三務部長とミエ工事ヲ復つる器にナル件

日の浦台院

龜井應政守の時都和野(四万
 三千石)の時

日本	米	五五〇〇〇
自働車王	米	五五〇〇〇
石油王	米	五〇〇〇〇
貴機院	米	一五〇〇〇
銀行家	米	一〇〇〇〇
事業王	米	一〇〇〇〇
二代目	米	一〇〇〇〇
岩崎家	米	一〇〇〇〇
三井一機	米	一〇〇〇〇
銀行家	米	一〇〇〇〇
ベーカー	米	一〇〇〇〇
ハロタ王	米	一〇〇〇〇

12		
13	北海道へ	
14	北海道へ	
15	北海道へ	
16	北海道へ	
17	北海道へ	
18	北海道へ	
19	北海道へ	
20	北海道へ	
21	北海道へ	
22	北海道へ	
23	北海道へ	
24	北海道へ	
25	北海道へ	
26	北海道へ	
27	北海道へ	
28	北海道へ	
29	北海道へ	
30	北海道へ	
31	北海道へ	

⑦ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

⑧ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

北海道へ

朝野

城島

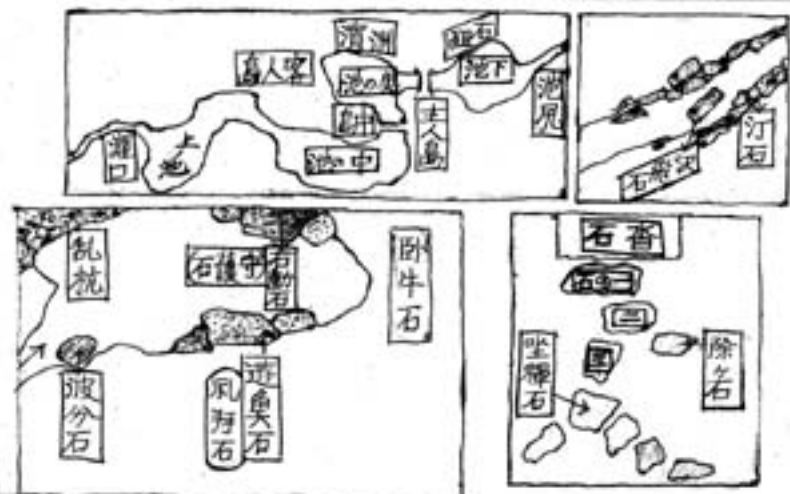
⑨ 国境と軽人の七国
 一、土耳其 仏境を合境
 一、印度 英境を合境
 一、支那 英、露境を合境
 一、白令 英、露境を合境

⑩ 日本境を産す一外境を必西の産すレ
 亂服ニスナ一整理必必要

⑪ 国境と輕人(七国)
 一、土耳其 仏境を合境
 一、印度 英境を合境
 一、支那 英、露境を合境
 一、白令 英、露境を合境

⑫ 唯果才人(西)洋地(東)洋地(西) 大ニシテシテ
 ⑬ 国境と輕人(七国) 時物(大)は(小)は(大)は(小)は
 ⑭ 实例—地名
 ⑮ —人名
 ⑯ —物名
 ⑰ —用法





聖王堂
 弘道館
 西山荘
 媽交亭
 聖王堂大成殿ハ三ツ四方、中池
 入母瓦葺、廻廊ノ寸法極致、
 下湯島ト同シ、
 大成門トテ、
 池ノ孔子ノ位ヲ示ス

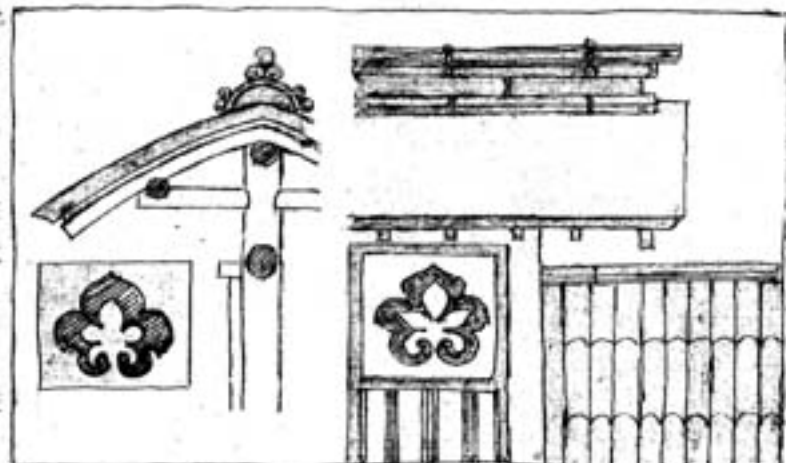
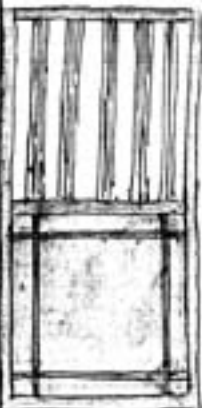
西分時代ト云フ可也
 義分時代後世及流セリ
 媽分時代

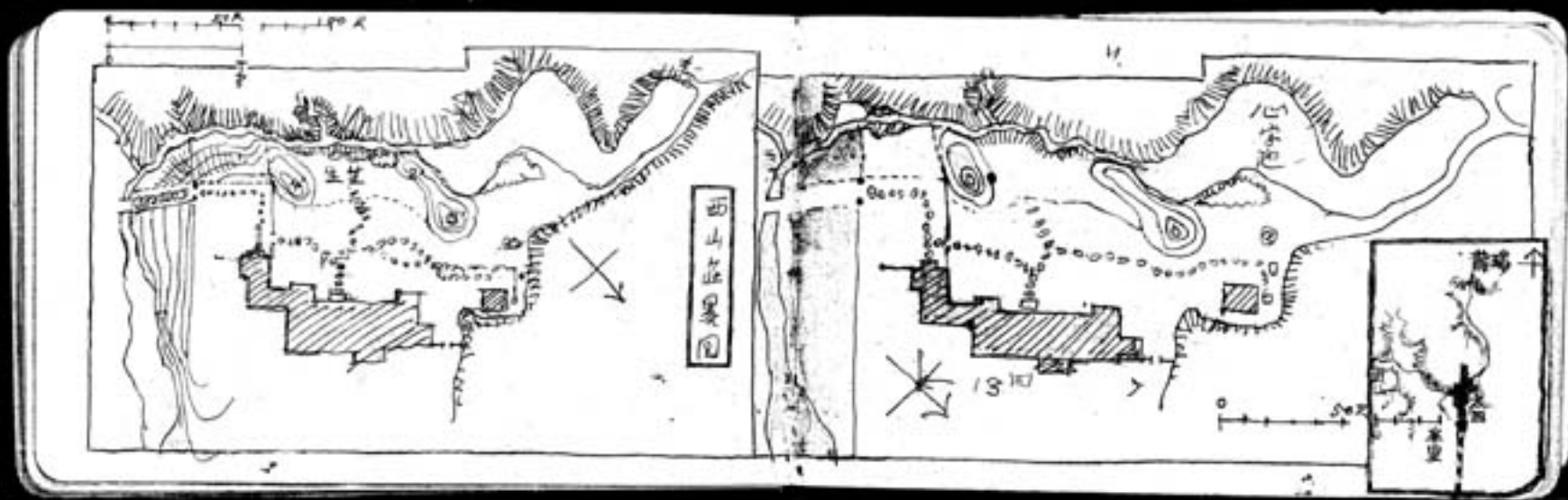
延二千坪内		八層本	
植木職一坪二人	4800	六ヶ月間	役木研削(坪)10000
夕手傳一人	2000	2	植込(千本)(坪)40000
土工一坪二人	9000	2.2	
白砂一五坪	120		
玉石一六坪	350		
喬木一坪三本	一坪三本	千坪3000本	
下木一坪五本	500坪一坪20坪	700000	
下草一坪	二本半12500	2坪	50000
芝生	坪一1500	棟 15坪	1500
地被	坪一1500	坪 15坪	1500
		(シタサハ 籠10坪)	
①大三十	300坪	9500	
②中二百	800坪	1600	
③小千五百	500坪	750	

大正十二年
 秋八月松方
 正義高橋是清
 共謀殺加藤
 友三耶群蜂起
 盜峰起市無
 一人詢義者

大正十二年八月八日

大正春秋大正十二年八月
 松方正義取友會高橋是清共謀
 殺加藤友三耶群蜂起物情廢
 然天下無人詢盜者。





内々ロの件

- 一 山ノコリ、往復日記、一尋、流中、竹、
- 一 杉、本、新、一、山、竹、
- (その他、見)
- 一 最大温度 (その季節)
- 一 最大湿度 (その季節)
- 一 最大雨量 (その季節)
- 一 主要な木材
- 一 主要な花材
- 一 大三人、竹、



古来、本、竹、山、竹、

一、池、山、竹、

二、池、山、竹、

三、池、山、竹、

中、上、中、

① 池ノ方針

山、竹、

② 笠山

山、竹、

③ 池ノ方針

山、竹、

④ 細流

山、竹、

⑤ 樹木

山、竹、

⑥ 笠山

⑦ 池ノ方針

山、竹、

⑧ 臥牛石

山、竹、

⑨ 鉢石

⑩ 亭

山、竹、

⑪ 燈籠

山、竹、

樹木	高木 2000	30000	亭子 一	5000
	灌木 2000	15000	石橋 一	1200
	下草 3000	6000	燈籠 三	2500
	庭石 500	2000	植木 十個	1000
石	庭石 5	2000	門 四	2500
	砕石 一式	1500	土工 四ヶ所	8000
	池周囲 一ヶ所	10000	植木 一ヶ所	6000
	流 一ヶ所	3000		25200
白砂	60坪	9000		94000
玉石	5坪	500		119200
苔生	1000坪	15000		
		94000		

ツルカの世界
 放火狂
 ウシヌの神通力
 世獄道 餓鬼道

設計	3000	(設計計 1000, 4000, 2000)
監理	3000	
9月 現場指揮一人	9月 6ヶ月	4000
11月 花木工 十人	9月	20000
17000 空費者出機	12月 2ヶ月	3000
		35000

119200
 33000
 152200

樹木は池の上流即ち東南を多陽木とし
 下流を寂念木とし暫茶花なる高木林
 とす一の山の後

この不吉な定式より、吾等の東北陽
 一ノ山を望み三ノ山、四ノ山を祀り
 其甚畏之心を池を穿ち池北に東南より
 入り西北に出づると計画する中地形を従ひ
 転倒するも可なり、
 池のお面子は廣闊なる平地をほけ銀
 砂とす

④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿

ド、ビ、ク、ド、トル
モ、モ、デ、モ、ウ、レ、イ、

ガ、フ、ア、リ、ス、

ダ、ス、ダ、イ、ナ、マ、イ、ト、ダ、イ、ナ、モ、ダ、ス、

ビ、エ、

樹木大小二千本	10000	-監督技師 三月	-2000.
石 大小二千個	10000	-植木擔 三人四月	-3500
小田石五立坪	500		5800.
砂利六立坪	4800.		
瓦 五坪	3000		
石掃 一ツ	1200		
燈籠 四ツ	2800		
土工 三千人	6000.		
植木職五百人	1500.		
垣、塙、四十間	800.	設計費 署本共	2500.00
門 四口	1600.	監督費	1500.00
	41700.		4000.00

通計 六萬五千〇五十円
 在園費 五萬五千円
 設計監督 三千八百五十円
 現場監督及
 職人旅費
 報酬 六千三百円

- ① ゴム、ゴララ。
- ② ゲー、ゲートル、
- ③ ガラス、
- ④ ガヤマン、
- ⑤ ガス、ガクリン、ガセ、ボオ、ガイド、
- ⑥ ガイド
- ⑦ ガイン、ライキワ、ライヤロフ、
- ⑧ ローラー、
- ⑨ レットゲン、レコード、レズリンダム、レイス、
- ⑩ レイター、
- ⑪ レ、デモック、
- ⑫ リン、
- ⑬ リン、
- ⑭ リン、
- ⑮ リン、
- ⑯ リン、
- ⑰ リン、
- ⑱ リン、
- ⑲ リン、
- ⑳ リン、
- ㉑ リン、
- ㉒ リン、
- ㉓ リン、
- ㉔ リン、
- ㉕ リン、
- ㉖ リン、
- ㉗ リン、
- ㉘ リン、
- ㉙ リン、
- ㉚ リン、
- ㉛ リン、
- ㉜ リン、
- ㉝ リン、
- ㉞ リン、
- ㉟ リン、
- ㊱ リン、
- ㊲ リン、
- ㊳ リン、
- ㊴ リン、
- ㊵ リン、
- ㊶ リン、
- ㊷ リン、
- ㊸ リン、
- ㊹ リン、
- ㊺ リン、
- ㊻ リン、
- ㊼ リン、
- ㊽ リン、
- ㊾ リン、
- ㊿ リン、

ホース、ホテル、

⑦ コライ、フラス、ミン。
 ⑧ ステーク、ヒル、ステーク。
 ⑨ ハカチス、ハハセニカ。

⑩ トロウ、トモク。
 ⑪ ナキタイ
 ⑫ ニンケル、
 ⑬ ナリス、ナフキン、

⑭ トマト、トロウス、トマル
 ⑮ テイル、テニス、テンプラス、テーパール。

⑯ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ⑰ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ⑱ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。

⑲ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ⑳ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㉑ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。

㉒ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㉓ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㉔ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。

㉕ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㉖ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㉗ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。

㉘ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㉙ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㉚ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。

㉛ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㉜ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㉝ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。

㉞ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㉟ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㊱ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。

㊲ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㊳ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。
 ㊴ ナリス、ナリス、ナリス、ナリス。

五角堂 七月ヨリ八月廿日行
 plan 1/50 化粧,
 elevation 1/50 又換,
 section 1/50
 detail, Front 1/20
 section 1/20
 天井伏 1/20
 景緻計 150 伊奈 150 200-250
 町設計 200 町子 200 200-150
 900.

伊奈	4000	3000
木材	3000	3000
木材	1200	1000
木材	1200	1000
a	800	700
b	700	600
c	600	600
d	600	500
e	300	400
甲	300	200
乙	200	200
合計	14300	12200
	700	
	15000	

五角堂	250	150	大正12	32000
劍路神社	300		(58)13	5000
沖田国王宮	1500	1500	(59)14	7000
雲舟遊跡	200	160	(60)15	3000
檢定	60		(61)16	3000
神宮	100			4000
理学院	300			20000
古社寺	50			
議院	600			
大学	180			
日光	100			
熱田	1000			
彌鮮	1000			
新橋	500			
新橋	500			
合計	6140			

道經寢室	220000	果	本
庭園	120000	2200	1000
		3200	
伊奈	2000		
佐味	1200	佐味	800
		町子	200
			200

● 連華美に就て 七日廿一日

一序

？は哲然的。人の心理のまじくまどてい
わぬ操導がなされるべき也。
之れを論ずるにあらざる、自分の感する
可き述ぶるに止まる。

二 建築は藝術の一なり、繪画と異は、
全然進歩、時刻を假して居るは又違ふ、
建築の美は立体的、コンポゼションの美
形の美、色の美、外に力の美、量の美等
も加はる。

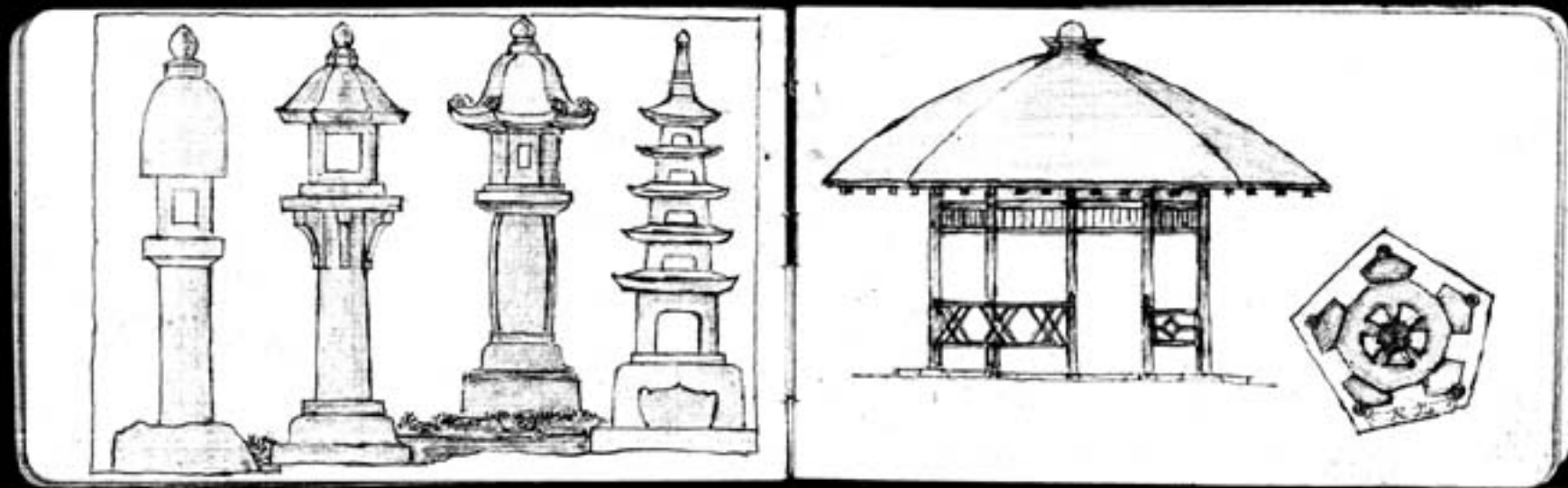
三 古来の例量りの美、はう、ロマンティック、
美、バルチンの法隆寺、色の美、力の美、
ゴシック装飾の美、日光の
コンポゼションの美、

四 東京市に於ける例
其の内形トモテハ平板力トモテ淺量トモ空、
五 結尾

体格の美
筋骨の美
表情の美
色彩の美
服飾の美
人に於て

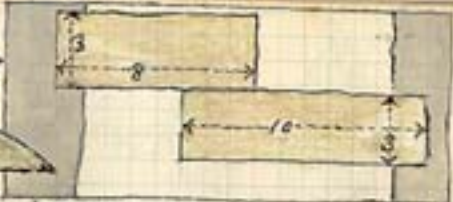
巨人の來新雜





獨乙マルス田付六方五千三百三十三マールク

六尺



荷造, 運搬, — 10000
 A 顧問 往復旅費 2500
 B 技師 3名 2000
 C 現場掛 4名 1200
 D 企 2名 1200
 職工十人千円にて 10000
27400

設計監督 (一年間)

譽 3000 { 伊 2000
 本 6000 { 松 1000
 監 5000 - A - (伊)
 技師 4000 - B - (佐)
 技手 2000 - C
 少 1600 - D
 少 1200
 庶師 1500
24300円
 事務 1200
25500

建築工費 220000
 庭園費 80000
 設計監督 25500
 運搬現掛 27400
352900

歌島任地
 伊東 4000
 小倉 3000
 木村 1500
 松井 1200
 吉原 1200
 a 800
 b 800
 c 700
 d 700
 e 600
14500

項目	数量	単価	金額	備考	数量	単価	金額
果樹計	350	200	70,000	175X2	350	200	70,000
中級計	700	500	350,000	200X2	400	500	200,000
庭木	700	500	350,000	150X4	600	500	300,000
現場甲	1,000	1,200	1,200,000	赴任常規=回	700X2	280	196,000
乙	750	300	225,000	=回	750X2	200	150,000
合計			3,500,000	受与(保宅現現)			1,000,000
				消掘品			300,000
				小庭及備品六坪			1,000,000
				運搬代			200,000
							3,900,000
							3,500,000

工費 220000. 巻 80000. 本 300000 計 945500.			
設計	2200	2400	
監理	800		
中級計	4400	6400	
庭木	1800		
現場甲	9400		
現場乙	2000		
	1800		
	1800		
合計			45500. 円

普観	50000000.	亭	1	2800
張作霖	50000000.	右燈	三	48000
袁乃寬	35000000.	石橋	二	1800
隨錦山	30000000.	石	大小六八百	8000
張慶遠	30	小砂利	五十五坪	1800
梁士治	30	玉石	二立坪	500
王占元	36	樹林	千五百本	15000
倪詔伸	25000.	芝生	橋地四百坪	8000
劉安財	2000	土工	二千五百人	6250
張鎮芳	1600.	植木職	七百人	2100
田中五	1500.	埋	六十M	1800
徐世昌	1000.	門	四口	41500
黎元洪	200.			

水仕(管石植)	1500	机橋三	300
技師入程法	4000	雞井一式	500
植木職五人	3000	養生	1000
	5800	重観	4000
		合計	5800
59550.			
13000.			
50000.			
77550.			

松方(六十七)
 三ツノと云ふ男
 へ休何者なるう
 三ツノ(七十四)
 櫻井が呼はれて
 来たしたる方者
 三ツノ(七十四)
 櫻井の代り
 永田とか云ふ
 青二才が市長
 になつたぞうだ
 三ツノ(七十六)
 八八い松方見
 から見ぬ前同
 標い青二才



成る程遠ふ
 鋳型で抜いた顔
 鍛へ上げた顔



小人剛底士不羨
 符命陸軍中將の口位
 一等即大級内野真猪
 晩々す

性慾熾發



未古人性慾号
 性慾研究号
 慾—以上七種
 戀愛、愛慕、性慾、性、戀愛
 性、性、研究、性、愛慕、

官憲「コトハ
 大妻は
 コレハ何デモウ
 新書買スアリマシ」
 貴紳の主人

土耳其民族の復讐

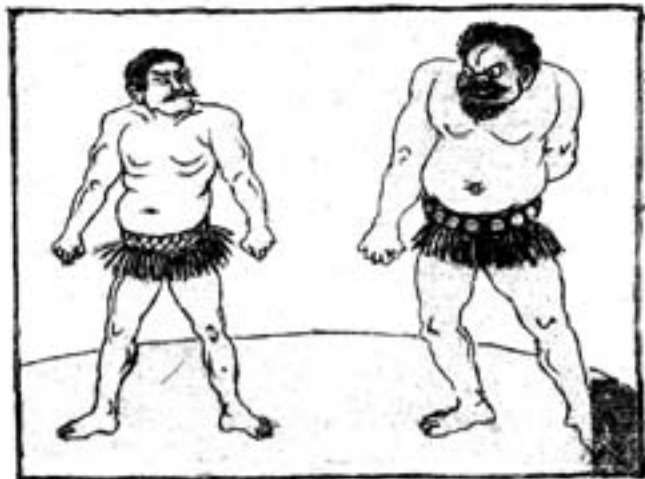
一 歴史上の無識—匈奴
 一 鮮卑拓跋—突厥—嚙噠
 一 セルジューク—オスマン—
 一 主としてセルジューク以下を述べる

土耳其藝術の特質と変遷
 一 遊牧の民—僥悍—一時的—他に同化する
 一 租渠、拓跋の漢化—中亞の印度化—
 一 セルジューク以後の回教化—
 一 オスマンの東羅馬化

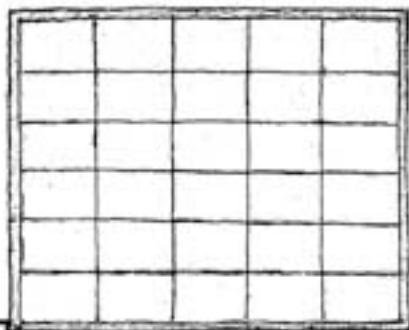
实例

一 回教以前、漢化
 一 西突厥、ササン化
 一 セルジューク、波斯回教化
 一 オスマン、セルジューク及東羅馬化
 一 トルコ民族藝術の前途
 一 西洋化—滅亡

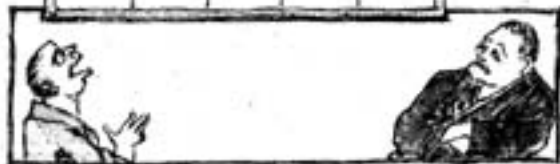
結尾



新
ゴライアスト
ダウ
ド



原字制限より
関字制限より
嘉事制限は充
甘辭中制限せよ





五月廿其民族の連系 六月十日
六月十五日

土耳其民族の歴史
1. 起源—西漸
2. 突厥

④ 西遊の土耳其民族の歴史
1. 非難北遊、北遊
2. 中史アリス、西遊トルキスタン

有地神本部
寺地大三郎
田中重二郎
加藤友三郎

オスマン土耳其の建築
1. ブルサ時代
2. 君臣時代

1. トルコ民族の華の海ノ通世
2. ルーム子性けりセルビーク

田村守備ヲをエウズクヘル。スタンブルスキ。
加地匡卿、鳥羽右一、谷野格、ヒエール、ロチ

寺尾長
八神長
全剛長
中村信九郎

細川油次郎
裁内次郎作
三矢重松
清橋家教

有地神本部
有島武郎
都築徳六

有地神本部
正親の美正
松本楓湖
奥大健載

愛知教一
正流の南窓
南 日

三ノ取、三ノ平、一ノ取、二ノ取、三ノ取、四ノ取、五ノ取、六ノ取、七ノ取、八ノ取、九ノ取、十ノ取、十一ノ取、十二ノ取、十三ノ取、十四ノ取、十五ノ取、十六ノ取、十七ノ取、十八ノ取、十九ノ取、二十ノ取、二十一ノ取、二十二ノ取、二十三ノ取、二十四ノ取、二十五ノ取、二十六ノ取、二十七ノ取、二十八ノ取、二十九ノ取、三十ノ取、三十一ノ取、三十二ノ取、三十三ノ取、三十四ノ取、三十五ノ取、三十六ノ取、三十七ノ取、三十八ノ取、三十九ノ取、四十ノ取、四十一ノ取、四十二ノ取、四十三ノ取、四十四ノ取、四十五ノ取、四十六ノ取、四十七ノ取、四十八ノ取、四十九ノ取、五十ノ取、五十一ノ取、五十二ノ取、五十三ノ取、五十四ノ取、五十五ノ取、五十六ノ取、五十七ノ取、五十八ノ取、五十九ノ取、六十ノ取、六十一ノ取、六十二ノ取、六十三ノ取、六十四ノ取、六十五ノ取、六十六ノ取、六十七ノ取、六十八ノ取、六十九ノ取、七十ノ取、七十一ノ取、七十二ノ取、七十三ノ取、七十四ノ取、七十五ノ取、七十六ノ取、七十七ノ取、七十八ノ取、七十九ノ取、八十ノ取、八十一ノ取、八十二ノ取、八十三ノ取、八十四ノ取、八十五ノ取、八十六ノ取、八十七ノ取、八十八ノ取、八十九ノ取、九十ノ取、九十一ノ取、九十二ノ取、九十三ノ取、九十四ノ取、九十五ノ取、九十六ノ取、九十七ノ取、九十八ノ取、九十九ノ取、百ノ取

全の責任(白面自替)の点を以てし、
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ

神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ

神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ

神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ

神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ

神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ

神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ

神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ
神社の神、本意ヲ知ラザレバナリ

ヤツコノ
オキヨセ
スミヨセ
イチ子シ
アラタメ
ウキヨノ
オホハバ
サトヨドノ
サンガツ
ハコチノ
シロコノ
カシハ
フトン
コヨシ
コヨシ
オセヘ
オマイ
ワシイマ
ノボル
コトツケ
ココハ
ヤマナカ
オタマ
セキダ
キト
アキ
アキ
アカ
バラ

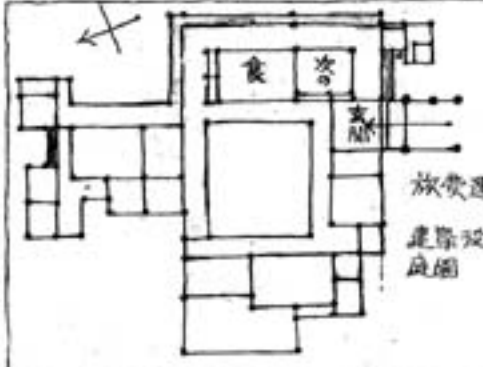
コノコノ
ナンドハ
ハラマセ
コノカタ
シスレバ
ハバミロ
オビシテ
トヨドノ
イツカハ
テガワリ
ヤカク子
センタイ
フトン
バヤシ
マスマセ
ノセテ
クダレカ
ノボル
シヤウモ
タンバノ
ナレバ
シロシハ
カイニ
オタマハ
ツケテ
クダレ
ナラバ
コタビニ
セキダ

ソレヲ
マイノ
ドドント
アチハ
コチハ
マイノ
ホシヤ
ヒトノ
カケレテ
シカシ
オタマ
オタマ
ボシヤ
シヤウ
アケタリ
ホラ

ハイテ
イシベン
フメバ
ドレーヤ
ヨコチ
ナトハ
ムスマ
オキヤ
ソノナ
ソノナ
ハタチ
スミガ
オカタイ
イ子ヨイテ

波斯

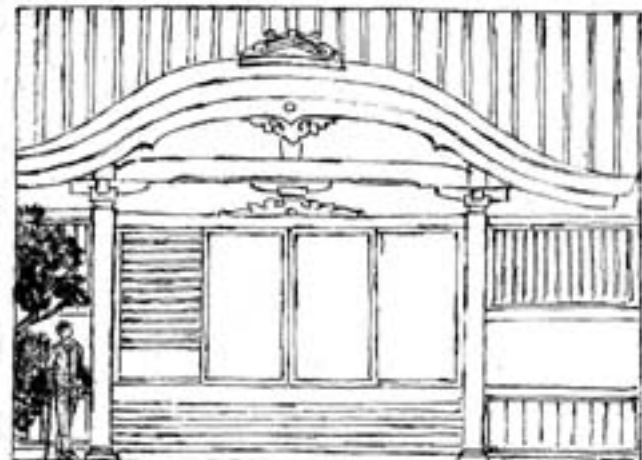
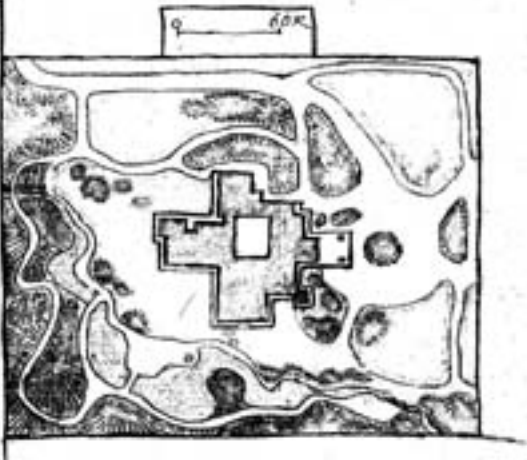
ターバッチ、ハーチエン
大地震死傷2200人
五月二十六日



工費	230000.円
度園	60000.
旅費運轉	270000
	30000
	320000.
建築設計監	34500.
画圖 監督	10000.
	364500.

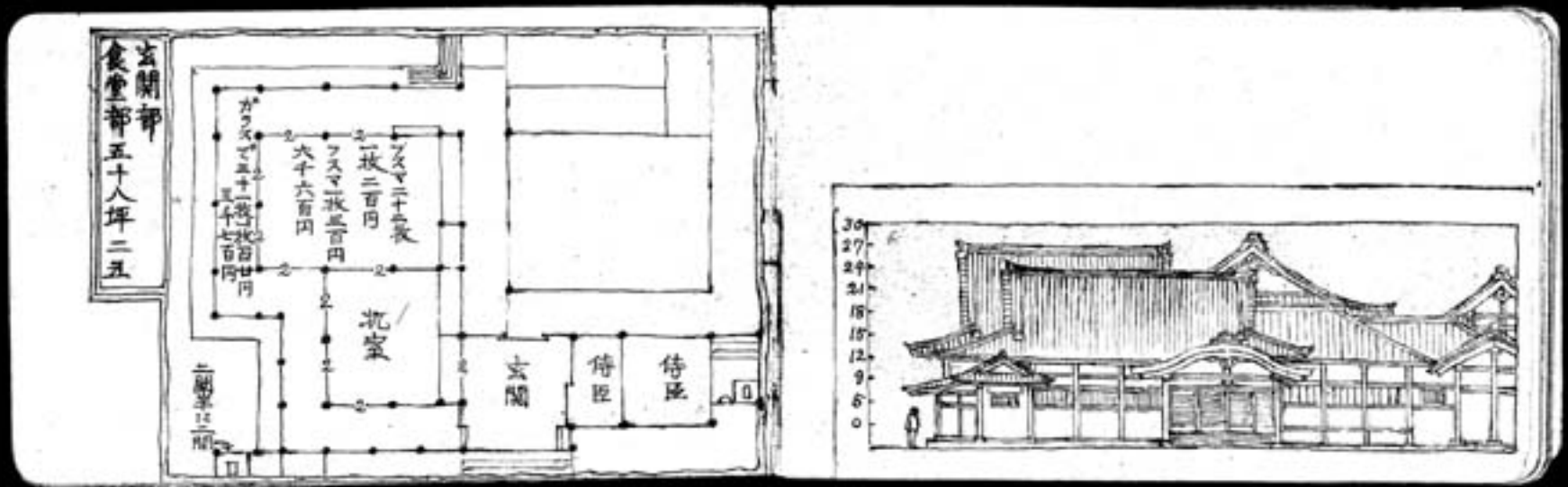


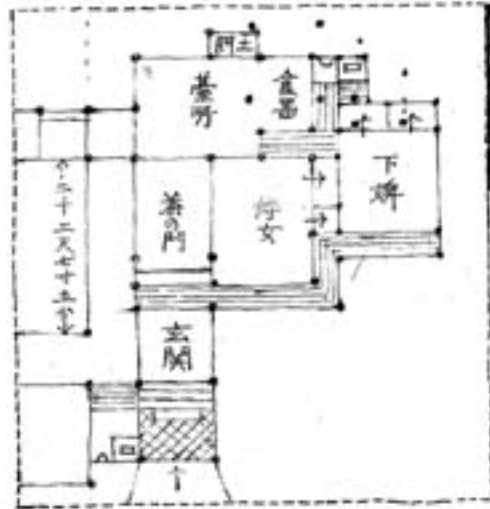
日本固有の宮殿は二層あり、口は威厳雄連なり出
ましく、一に書院造り出たりあり、今、前者は
十世紀頃のあり、後者を平安朝の聖徳にして
後者は十世紀の頃より、養老天皇の御代に於て
より、前者は其の隆絶するを以て後の聖を推す
後、今、前者の型をも模倣する所あり



	柱間	間	柱の	坪数	坪数	小計
玄関部	6.3	6.3	50	1500.	25.00	37500
食堂部	6.3	6.5	55	1800.	58.25	104850
寢室部	6.3	6.3	50	1300.	46.25	73000
勝手部	6.3	6.0	4.5	800.	38.50	30800
				76500		246150

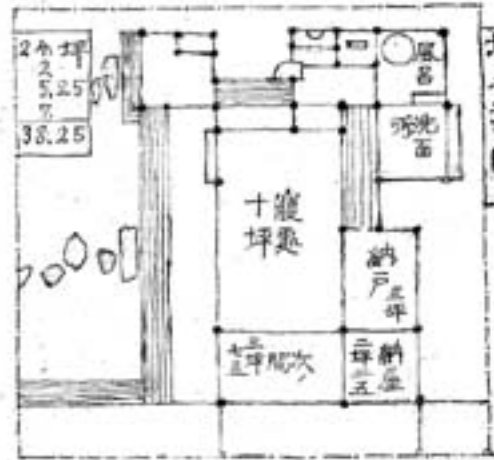
本建築は王宮附屬の園内ノ小別荘と云へテ
陛下が臨時行幸セラレテ休憩又ハ宿泊セラルル為
ノモノトセラレ。
故ニ規模ノ手法等極テ嚴重ナル正格ニ按テ
寧ろ離宮ノ性質の中とセリ。
様式ハ純日本式ナレドモ現代ノ生活ト俊交渉ナル能
ハ様式ハ純日本式ナル心ス麗正ナル日本風ニヨラ
ブレ点アリ
程度ハ最上等ヲ要求セラレタルモ無意味ニ
贅澤ナク亦テ適當ヲ以テ以テ以テ以テ比較
的質安クモシテ粗悪ニ陥ラザル程度の中
とセリ。
本設計は對して改修せんき点ハその廉々
を詳細に通告セラレタシ
設計確定の上は日本に於て凡ての切組を了
し現場に送りて運送するものとす
設計確定以前技師も現場を派遣セシメテ
現場に對て充分研究を遂げタシ
材料を主として臺灣産材を用ひタリ
せんも遠距離の木材を使用する場合は工事の
方法を變更すべし従て工費は異動を生ず
べし。





三十八坪五合

柱奥六尺五寸
内法六尺
柱四寸五分
坪六百四





● 勞農官吏腐敗

六十一名死刑

二千五百名以上
禁錮
總三千二百六十五名
二身乃三十年

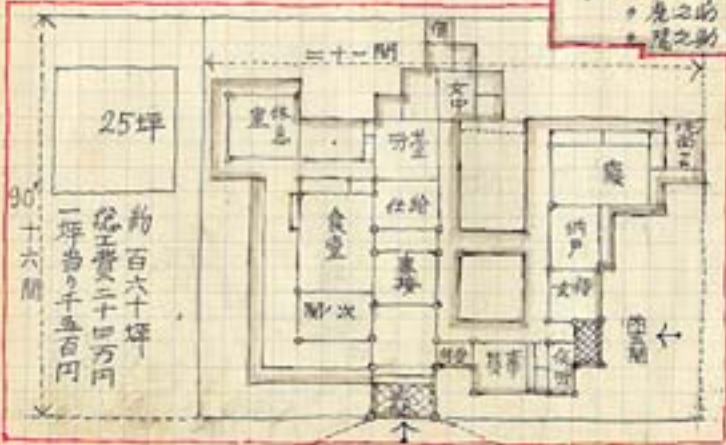
三原色	50 ^円	百日旗	同	徑環	5000
Red, green, Violet.	250	百五十日	技師		5500
Red, yellow, blue.	20	技師			4000
					7500
Pinatype 三色	150	技師	長五人		20000

① 假設地子	四六一五〇
② 建築費	一四六一五〇
地形 (坪百四)	一五〇〇〇
内飾工 (坪百)	一五〇〇〇
建費 (坪百)	二〇〇〇〇
塔塔設備 (坪百)	三〇〇〇〇
屋根 (坪百)	三〇〇〇〇
柱 (坪百)	一〇〇〇〇
設計監工費	五〇五〇〇
設計(暴水)	六九〇〇〇
監督	四六〇〇〇
現場主人	二〇〇〇〇
補助費その他	二〇〇〇〇
調度品	〇〇〇〇〇

庭

池、築山、橋、道	二万四五千
樹木、石、芝 (三千坪)	二万円
燈籠 三個	五千元
生垣	三万円
塙門	三万円
庭園費 (僅復百人)	六万五千円
その他の多少の十分	三万円程也

伊東 500
 佐々木 300
 虎之助 100
 陽之助 100



約百六十坪
 総工費二十万四千元
 一坪当り千五百円
 90
 十六間



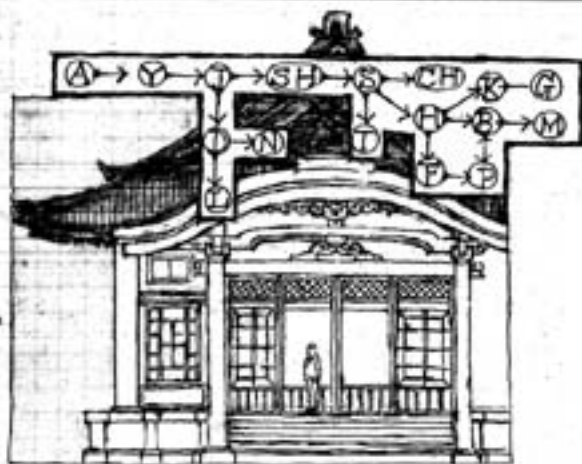
百五十坪
 坪千五百円、三十二万五千元

柱間 六尺五寸
 内法 六尺三寸
 柱 六寸角
 天井高 十一尺
 床高 三尺
 玄関内法 六尺六寸





Mexico, Yucatan, Maya, Ruins, A.P. 4512
1799 America 号 40122
Maya Ruins of Chichen - Itza,
by Sylvanus G. Morley.
15 square miles: 5 Great City, 1000. Pyramids,
Temples, etc.
Japan Advertiser May 5, 1923.

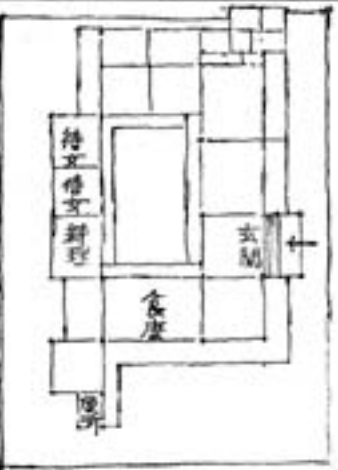


自殺者

大正6	1075
7	1167
8	1104
9	1031
10	1286
11	1309

猛死, 水自斃, 毒藥,
飲道, 銃。

精神暗病, 痛苦, 生計困難
悲觀, 情死, 疾病, 癱瘓,
他傷, 空想, 鬱鬱, 鬱鬱, 鬱鬱
輕生, 苦悶, 苦悶, 苦悶
離! 和運, 離, 離
失戀, 離, 離, 離
離, 離, 離, 離
20-30才 5才以上



KARADA = KADARA	カダダ = カダラ
TOJANA = TONADA	トダナ = トナダ
ABURA = ARUBA	アブラ = アルバ
CHAGAMA = Chamaga	チャガマ = チャマダ

逆接同音(ローマ字つ)

AKASAKA	-赤坂
AMISIMA	-阿彌島
ASA	厚狭
ATUTA	熱田
IKI	吾岐
ISIBASI	内津
UTUTU	江部
EBE	江部
ONG	十男

大森発見の古瓦

- 一 序言、安南紹介の言
- 二 安南の歴史
- 三 東洋學院
- 四 大森の位置とその發掘品
- 五 支那文明の感化
- 六 結尾(支那王朝は似たる關係)

1 2 3 2 2 1

●設計報告

出雲大社、戦国最古最高の神社にして、古来因式の崇敬最盛なり。其五人の賢言を得たり。然るに其地横、寧終溢れ失し、其六風致、亦た漸く衰へ、社殿の配置、如き均斉を欠き、頗る遺憾の点あり。茲に於て是に地境、棟梁及整理の企図起り、余が神社の委託を受け、茲に本日を以て起工式を奉り、うちに至りたるは、余有の願せし淨とすべし所あり。

其設計を完了し、設計は要する所あり、
●地境の範圍擴張より旧来の大社より餘地を併せし。

●は風致の振興あり、即ち參道を改修し、
●は神木の神抱し、花林を作り、泉池を穿ち、
●は四圍の山岳を穿ち、併せて大神域を現出せんとす。

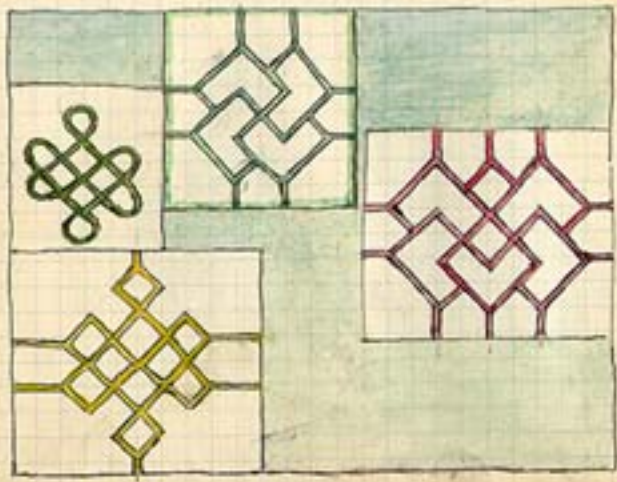
●は諸設備の經費あり、即ち運動場、
●は社務所、新築社務所以下諸殿舎の移
●は輪若くは補修、改築にして之に由て建築を
●は純一し、建物を取り、表層崇高の趣を致す
●は其詳細の如き、簡瑣煩に且らば、以て今茲
●は之を省り、又別に設計圖面及書類に就て
●は概観せしめんことを希ふ。

●は今や工事始めて其緒に就く、余令願はく
●は本體の努力以て事に當らん。仰ぎ希く、源
●は摩神威、神徳と神明の棲居とに有力を官
●は民諸士の後援と鞭撻に由て、懸定を工程と
●は徹らえ、以てよくその功を完アサンイッ、之を
●は設計報告とす。

大正十二年五月六日

出雲大社 工事顧問

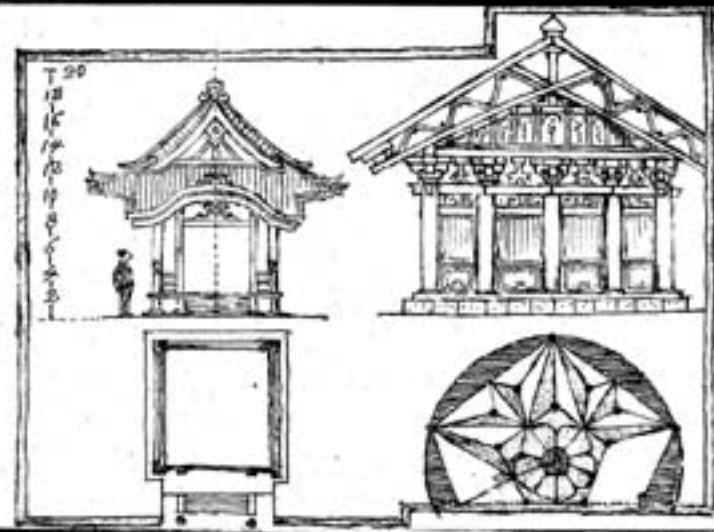
工事博士 伊東忠太

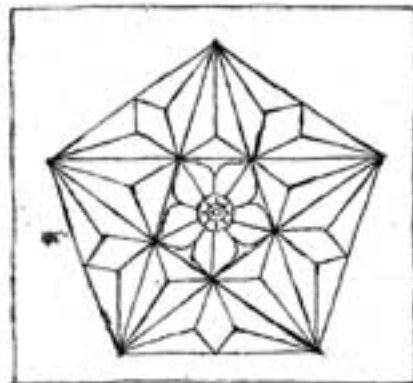
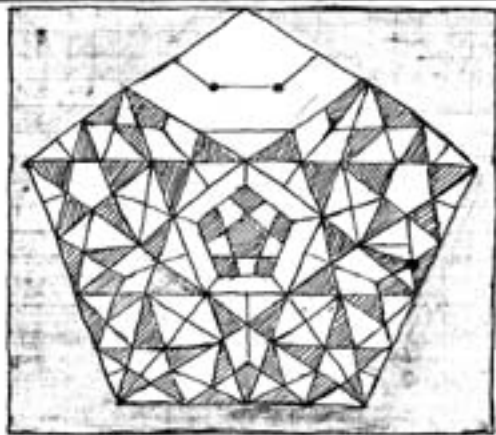






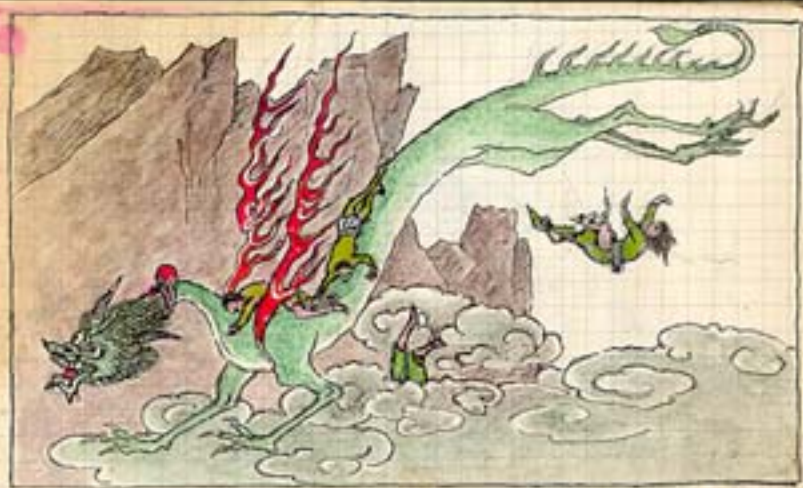


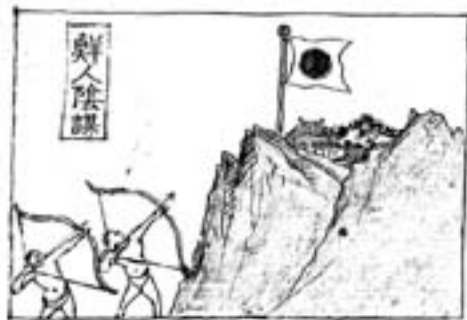






文の哉思心人の出でさるや。友人と山懸公
 の對話。公のまゝ一理ある。自ら息を塞せしむ
 外人のまゝには有目従す。
 多く引人の眞を販次くものをもとめし者とし自かを得意
 とす。思也。日本人の外人は器弄するやあれわ為
 日本人の力知カ玉座。深淵の淵々外人に譲らす。
 只自尊の尊多。元氣を欠く
 小器細歌きして大度置まじし。
 狐は見るから巧器で飾りし。半は同情を得。日本
 人の大器よくして世界人の痴視を愛くれば狐の相あ
 りはあり。吾人は小乃志若て大器なきは言ひもへし。
 餘り堅氣を捨てて親重が
 狐の如くさるる勿れ。牛の如くあれ。蛇の如く勿れ。蛙
 の如く。
 狐の如くさるる勿れ。牛の如くあれ。蛇の如く勿れ。蛙の
 如く。
 多く知るより多く思入
 久しい哉。愚人を愛するも一や
 而して愚人の出サレドヤ。



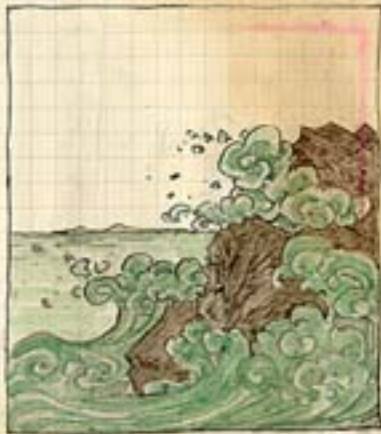


五月十二日

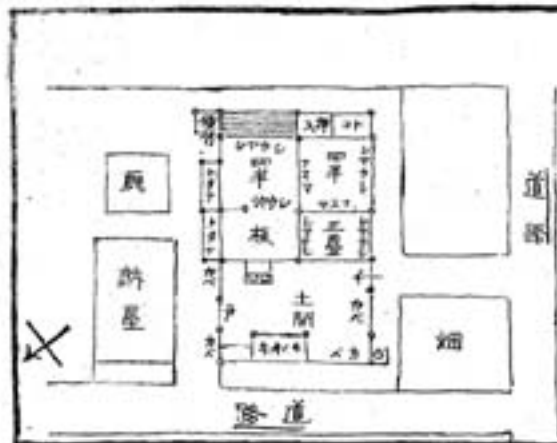
余の日本建築史観

一	序言	三分
二	日本建築の発生(地理と国民性)	八分
三	幼児青年―壯事 <small>(原始的)</small>	十分
四	一期原始代	十分
五	二期三韓の感化	十二分
六	三期支那の感化	十一分
七	四期浸染の感化	十分
八	外国文化攝取同化力の歴史	十分
九	回顧から現代へ	十分
十	結尾	四分

凡九十分時門



美濃郡吉田村大字下本御
字山地榊井光治邸



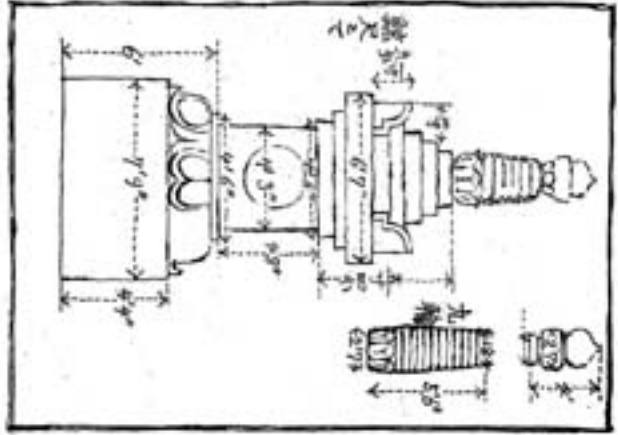
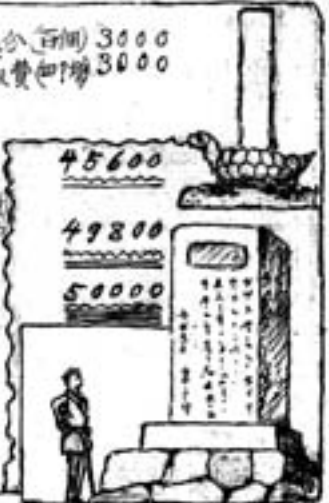
● 雪舟終焉地保存計画

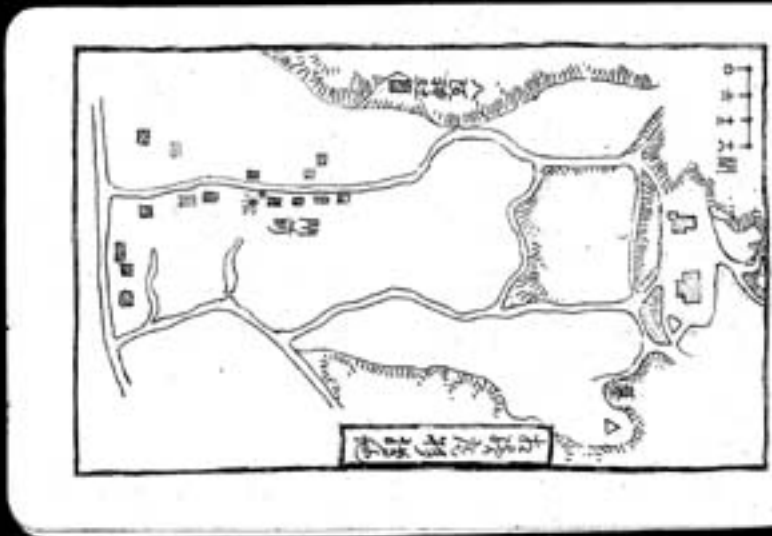
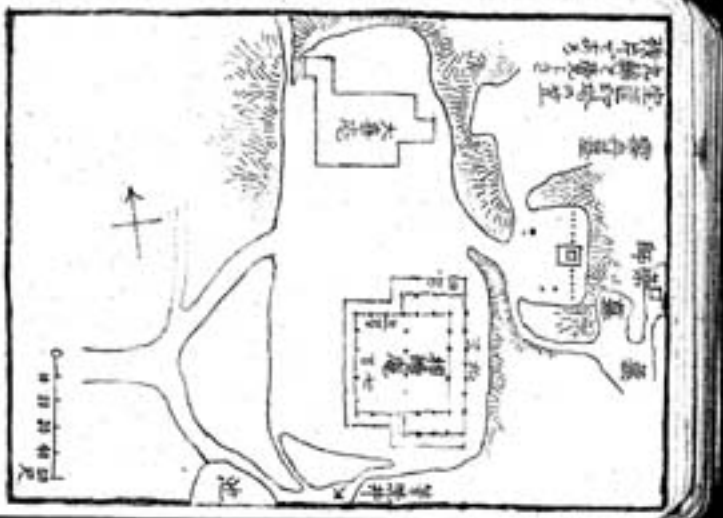
- 一、道路を廣げ及修築、路幅現在一間内外より之を二間位増さんし。
- 二、大書庵を修繕し、~~（？）~~（？）を削りて架設者の休憩にも使はす。
- 三、相續庵を下に移轉し、建具、天井を完成すべし。
- 四、相續庵の跡は眺望地として存さんし。
- 五、雪舟の墓を整理し周囲を整えんべし。
- 六、附近の墓を移轉し、廣園をも敷地をまへし。
- 七、漢師堂を廢して眺望亭とし、築山、相續庵は合祀スルモ可なり。
- 八、築道の入口は碑を建つ。
- 九、墓側は碑を建て、墓の由緒を刻す。
- 十、來訪者の宿泊に便する設備は見合はす。
- 十一、樹木ヲ補植、保護、間伐等ノ必要アリ。

- | | | |
|--------------|---------|--------------|
| 2 | 道路四百円 | 10000 |
| 5 | 大島庵(坪) | 5000 |
| 6 | 相續庵(坪) | 12000 |
| 4 | 土地整理(坪) | 5000 |
| 7 | 墓呀分 | 3000 |
| 10 | 眠室亭(丸) | 3000 |
| 11 | 植樹保樹(木) | 1000 |
| 9 | 碑(二) | 1800 |
| 3 | 運込 | 300 |
| 12 | 設計監督 | 2500 |
| 13 | 事務雜費 | 3000 |
| 合計 | | 40300 |
| 設計監督: 金子 200 | | |
| 伊藤 500 | | |
| 現場 1000 | | |
| 7 800 | | |

- | | | |
|---|----------|------|
| 8 | 地基(坪) | 3000 |
| 1 | 運搬買取費(坪) | 3000 |

$h = 8, 6 - 3 \frac{2}{3}$
 3601 碑
 101 睡
 150 刻二右字
 51 文植樹
 211





① 木曾・米沢等の莊嚴神社

② 旧米沢藩の莊嚴神社と云々、字原、菅原の地名を以て
 莊嚴と名けり。——排張の莊嚴と増の莊嚴とを以て
 計りたり。

③ 林蔵を齋の莊嚴と稱す。見
 見 齋院等存の利便の事、
 ④ 防又屋敷、永又保存あり。
 ⑤ 寺理規的神社とす。

⑥ 新く造らるる建物、米沢以下何杯……？
 ⑦ 林科、水鏡廻り、木曾格を他人物と云じ異同
 佐事へ出来、大天ノ純重。

⑧ 神座、春日式鋪設、先美公神、見、正式に
 ⑨ 行々、馬ノケルモノ、井上女功

⑩ 米沢の東北方の神社。
 ⑪ 限保者諸君、紹介スル先所ヲ得ル——
 ⑫ 神社直轄、大率寺中、等、統管——
 ⑬ 察知事の置替——設計位々々々——
 ⑭ 現皆奥水以下。

⑮ 是工以來、格々、吸調、何事故障ナシ、又之出来、
 ⑯ 自願自費、ト云、自願自費、ト稱シ、ト云、
 ⑰ 蓋し、余神ノ、俊成神徳、由、易、由、事、者、
 ⑱ 後、彼ノ、有力者、ト、者、者、者、ト、云、水々、米沢、
 ⑲ 國家、守護、米沢、鎮護、カ、人。

ANATA
 NANARIO
 AGARITO
 TAI
 AKA

AMATA
 NABAMA
 ATARA
 TA
 A

旅	25
旅	20
旅	16
旅	14
旅	45
旅	15
旅	70
旅	10
旅	5
旅	5
旅	165
旅	250
旅	-165
旅	= 85

一 二 三 四 五 六 七 八 九

設計方針
施工方針
出資の建費
その坪数その他
工数工費
関係者
結尾

竣工報告(道會にて)

(一) 建築の由来
(二) 建築の見定と工事と完美
(三) 余の心事と理想
(四) 東北の神社
(五) 善美を竭セル神座及舗設
の当局当事者の功

(新聞にて)

伊東忠太
佐々木岩次郎
奥本五市
鈴木三造
篠崎善一
五十嵐牧太
森口五郎

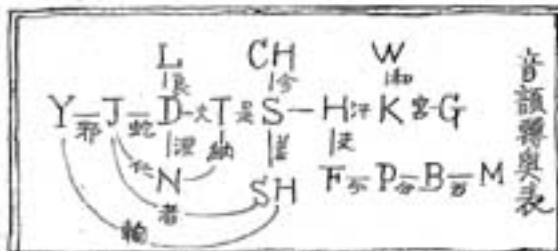
	大正十二年(57)	大正十三年(58)	大正十四年(59)	大正十五年(60)
大学	180	180	180	180
上杉	4000			
秋田	1000	1000	1000	
神宮	1000	1000	1000	1000
神文	100	100	100	100
日光	100	100	100	100
大蔵	600	600	600	600
大蔵	200	200	200	200
鷗見		1000		
歌并	7280	5180	3180	2280
	500	5000	繰越48860	繰54440
	7780	9180	利子 2300	利 200
		繰越37780	54440	59320
繰越	30000	利子 2000		
	37780	45860		

竣功賞與		現給		事務費	
奥本	2400	2400	2600	213	2600
篠崎	1020	1020	1080	95	1170
森口	744	736	820	50	870
書記	400			55	300

		合計	
査定	奥本	2400	2400
	篠崎	1020	1020
	森口	750	744
			7700.0
			8075
			572.0



奥本	二月	2500	官司	1000	伊東	3500
發崎	八月	800	伊藤	500		1800
亞口	九月	700	和地	300		4300
後藤	夕	300		1800		9500
		4300				



十二年二月廿八日印刷

	法	医	工	文	理	農		紫	林	軟
旧	219	244	384	183	182	14		36	36	26
新	3	161	13	2	12	11	1	3		2
合	222	1005	397	185	194	25	1	39	36	26
附					2	1	3	2		

二年級武蔵野		大正十二年入学率	
可為田	70	一高	15
可多山	68	二〇	7
可山内	66	三〇	6
可浦川	68	四〇	2
可瀧川	70	五〇	4
可杉子	64	六〇	7
可新芝	65	七〇	6
可島文	66	八〇	7
可中島	64	新田	2
可舟長	63	松平	4
可小森	66	山口	3
可瀨	70	松山	1
可瀬	65	水戸	2
可池	67	山形	3
可甲野	756	飯沼	3
可大島	72	理農	1
可大田	70	農	6
可津野	70	工士(知)	2
			81
			26

<p>原左印 何礼上 高柴村 柳谷村 池田家 柳井家 小島政治 朝比奈村 銀塚茂 尾村淳一 小野谷六 瀬井隆長 前川兵馬 山下雄 土 利火子土 伊波地王輔 藤敷萬 小島</p>	<p>大橋善 井口在 加藤和 香川輝 藤田康力 渡辺子吉 此胡宮殿 山下右部 海濱安塔 大島直道 前田流子 高田道見 大橋尚慶 大橋鏡子 新島健之助 小島村三郎</p>	<p>三井老 小島原 大友存 島戸 木</p>	<p>95 70 65 80 35 70</p>	<p>徳一 竹田常治 山 伊達 42</p> <p>常の花優勝</p> <p>◎阿久津 ◎琴ヶ浦 △三杉 ◎若葉山 ◎能代 ◎江川 ◎清川 ◎白岩 ◎千葉 ◎源氏山 ◎琴ヶ浦</p>
--	--	---	--	---

八月 24 11時発 水戸泊
 25 平泊
 26 15.45 停泊 — 五箇塔設計成心
 27 久米氏来心
 28 夜発
 29
 30
 31
 九月 1 夕刻系城邊
 2 1等往
 3 夕刻
 4 報喪
 5 朝下 湖第一 船回心 — 夜発
 6 百午 水太 船着 — 夜発
 7 俣子
 8 新橋 向 寄
 9
 10
 11
 12

26 (三月)	16	
27	17	
30	18	
31	19	
1 (四月)	20	午後 9.30 発
2	21	米沢 滞在
3	22	
4	23	午後 米沢 発 — 東京 着
5	24	午後 発
6	25	1等 往 生式 午前 9.30 発
7	26	米沢 滞在
8	27	二宮 社 奉 祭 拜 泊
9	28	龍田 一 守 治 祭 儀 泊
10	29	法 隆 寺 東京 着
11	30	大 社 泊
12	31	大 社 寄 — 益 田 着 (泊)
13		龍 泉 — 益 田 寄 (泊)
14		東京 着
15		

54

北多摩郡武生野村
境
田中隆五印

今あのかき
二十一年の上の巨漢

川田山印
山本春舉
西内成所
田中米助
篠田元郎
酒井右兩
自賀雨種泰命
久若良助
小寺謙吉

田中英詰
塚本靖
田代徳
野田卯次郎
氏乳色印
武田五郎
柴垣新右
長谷川久一
山口辰之助
田中辰鋪
白井善三
山崎伊三
堀口保弘
西久保三郎
鶴岡長三郎
佐々木貞三郎

大正二十三年

四月

雑誌従刊